

## 『奴国の南—九大筑紫地区の埋蔵文化財—』展を九州国立博物館で開催

**概要** 九州大学総合研究博物館は、昭和 53 年度から平成 10 年度に実施した九州大学筑紫地区の発掘調査で出土した埋蔵文化財を紹介する展覧会を、2009 年 1 月 1 日（木）から 2 月 8 日（日）まで、九州国立博物館で開催します。調査地は「魏志倭人伝」が記す「奴国」の中心部だった春日市須玖丘陵の南方あたり、多大な成果が得られました。展覧会では今まで一般に紹介されることがない主要出土品を網羅的に展示するとともに、関連資料と比較しながら、この地域の弥生時代から古代にかけての様相を明らかにします。

**■ 背景**

九州大学総合研究博物館は、九州大学でのさまざまな教育・研究の成果を、学外の一般の方々にわかりやすく紹介することに努めています。この活動によって、大学の研究成果の社会への還元による地域社会への貢献に寄与するとともに、大学の活動への社会的理解を深め、支援を得ることに努力してきました。本年度は九州国立博物館のご理解・ご協力を得て、展示施設の一郭を借用しての開催が実現しました。

**■ 内容**

九州大学総合研究博物館 平成 20 年度公開展示『奴国の南—九州大学筑紫地区の埋蔵文化財—』展

期 間；平成 21 年 1 月 1 日（木）～2 月 8 日（日）

場 所；九州国立博物館 4 階文化交流展示室

開 館；9 時 30 分～17 時（入館は 16 時 30 分まで）

料 金；平常展の観覧料が要ります。大人 420 円、高校生・大学生 130 円

展示趣旨；

九州大学筑紫地区では、諸施設の建設に先立ち、昭和 53 年度から平成 10 年度まで、埋蔵文化財の発掘調査が行われ多大の成果をあげました。しかし、諸般の事情から、その調査成果や出土品がまとまって学外に紹介されることはありませんでした。今回の展示では主要出土品を網羅的に展示するとともに、周辺地域の近年の調査成果を参照・比較しながら、この地域の有した歴史的な位置付けを明らかにします。

九大筑紫地区は律令制期の那珂郡と御笠郡にまたがっています。時代を遡れば、中国の史書「魏志倭人伝」が記す「奴国」の中心部である須玖丘陵の南方に当たります。「魏志倭人伝」に登場する諸「国」の実情とその歴史の解明は、主として考古学の方法と資料によってなされてきました。本展覧会も奴国の研究におおいに寄与できるでしょう。

時代別見どころ；

◎弥生時代◎ **全国的にも希少な巴形銅器鋳型**が出土しました。しかも北部九州製青銅器で初めて**鋳型と一致する製品**が判明しましたので、その両者を展示するとともに、製品の類品を網羅的に集めて流通の背景を考えます。大穴からまとまって**多量に出土した祭祀土器群**のほか、瓢箪形土製品、銅鐸形土製品、石戈、石剣などの祭祀関係品、青銅製鋤先などから、当地の状況を探ります。

◎古墳時代◎ 通常、墓の副葬品である石製腕飾（石釧）が**墓以外の場所で出土**しました。**全国でも稀な例**です。石製腕飾類自体が九州では少ないので、**網羅的に集めて出土の意義**を考えます。須恵器製作用の木製工具 3 点がセットで出土しました。**セットが揃うのは国内唯一例**ですので、類品を集めて比較検討します。古墳時代前期の日常土器、後期の土師器・須恵器などから当地の様相を探ります。

◎古 代◎ 筑紫地区の東半から水城西門と鴻臚館を結ぶ**官道**が見つかりました。官道沿いには役所的施設があつたらしく、**木簡、硯、瓦**が出土しました。官道の西方には**小寺院**があり、周囲の溝から多くの**墨書土器、硯、瓦**が出土しました。

■ 効 果

一般への初公開展示品によって、筑紫地区に存在した遺跡の歴史的重要性を知って頂く。  
九州大学における考古学の研究・教育への興味関心を持って頂く。  
九州大学が、キャンパス内埋蔵文化財の調査研究に努力している状況を知って頂く。  
九州大学総合研究博物館の活動への理解をもって頂く。

【お問い合わせ】

九州大学総合研究博物館教授 岩永省三

電話：092-642-4294

FAX：092-642-4299

Mail：[iwanaga@museum.kyushu-u.ac.jp](mailto:iwanaga@museum.kyushu-u.ac.jp)

九州大学総合研究博物館事務室

電話：092-642-4252